

東大ツアー&内定塾(大学1・2年生体験)ツアー参加生徒感想

- 今回参加させていただいてまず感じたことは、「様々な分野の物事に精通し、博識である方のお話は、聞き手にとって大変興味深いものであり、そのお話は厭きない」ということです。他人とのコミュニケーションは社会で生きてゆく上で最も重要であることの1つです。トーク力を身に付けるということ、すなわち、どのような分野の方とでも深く掘り下げてお話が出来る、これは獲得できる能力だと思います。内定塾の高嶋先生が仰っていたように、「個人の努力」と「仲間の努力」という2つの努力が合わさることで結果が生まれていくのだらうと感じました。「文系・理系」、「社会と学問」の境界を意識せず、他人に必要として貰えるような人間にならうと心に決めました。(女子)
- 東大生の先輩方が東大を目標にした理由には少し驚きましたが、強い意志を持ち、勉強に励んでいたと知り、どこの大学に行くにあたって、まして東大を目指すならば相当な努力が必要であると改めて感じました。また、一つ一つのテストの結果に一喜一憂せずに根気強く取り組むことの重要さを学び直しました。内定塾では、就職の現状を聞き、大学を選択する際の視野がまた広がった様な気がしたと同時に、現実の厳しさをひしひしと感じました。今回、このような機会を設けて下さった先生方には感謝したいと思います。今、私が居る環境がどんなに幸せなものかを知り、これからも努力していこうと思います。(女子)
- 東大を見学し、現役の学生から話を伺うことで、モチベーションも上がり、今回の見学で学んだことを大切にしていきたい。内定塾へ行き、高嶋先生の講義を受け、具体的な目標を持つこと、自分の将来のために勉強すること、企業も多くが「ターゲット採用」をするという話を聞き、やはり大学は館一の先生方が仰る「2,5%」の大学に入らなければ今後勝負したいフィールドにさえ立てないのだと痛感した。今回のツアーを経て、やる気も意識も変わった。自分自身の思いも確認出来た。今後は目標に見合う努力をしたいと思う。(男子)
- 今回の「意図」はどこにあったのだろうか？と問い直すと、館一の先生方が仰る話の内容と重なることばかりで、素直さの純度を上げなければならないと思った。就職が全てではない、学歴が全てではない、と自分のどこかでひねくれていたが、「勝負したいフィールドにさえ立つことが出来ない」という内定塾の先生の言葉が痛烈に残った。先の見えない今、不安と格闘しているが、不安の質も改めて考えなければならないと感じました。このようなことまでしていただけるACや先生方に恩返しをするべく、ひたすら努力を続けられる自分でありたいと思うようになりました。ありがとうございました。(男子)

コーディネーターより

- 今回拘ったことの1つに、現役東大生との対話が挙げられます。担当ガイドの学生と話をする、東大生であることは「日常」の1つであり、何ら変わらないことでありますが、その「空気」を味わった人たちでなければ味わえない「共鳴・共感」を高校生たちに少しでも盗み取っていただきたい・・・そう考えました。内定塾では、やはり就職状況の厳しさに直面するのですが、そこを打破していく人たちのあり方に、今後の再考するきっかけを持たせること、そして、茨城での生活に生かすこと、こちらの願いはまだまだ尽きません。今回の企画も生徒の方々だけでなく、保護者の皆様方、多くの方のご尽力により、無事実施できたことをこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。